

先週の回答

命の宿 旦夕



一大事業をなしとげた松舌幸之助の大きな屋敷の奥座敷。屏風に囲まれ、身内に囲まれて絹布団の床の中の大実業家は今しも臨終をむかえようとしていた。

「医師（せんせい）、どうなんでしょうか？」

「命在旦夕（めいざいたんせき）ですな・・・」

「と、いいますと？」

「ですから、命、旦夕に在り。今朝か今晩というほど生命の尽きる時が迫った状態のことです。つまり、まもなく臨終の時を迎えようとしているところですよ」

一同、表情は驚き。心は（やっとか）。

死相の浮かぶ瀕死の老人は朦朧とし

た意識の中で（自分の一生は何だったのだ）と来たし方を回想する。

（見かけにだまされて娶った女房は、子どもは生みつばなし、家事はまるでダメ。教養のカケラもない・・・長女は母親のDNAそのもののアツパラパー。長男は先天性女好きの出来損ない。次男は、この世に働くなんて行為があつたのかという怠け者・・・）。

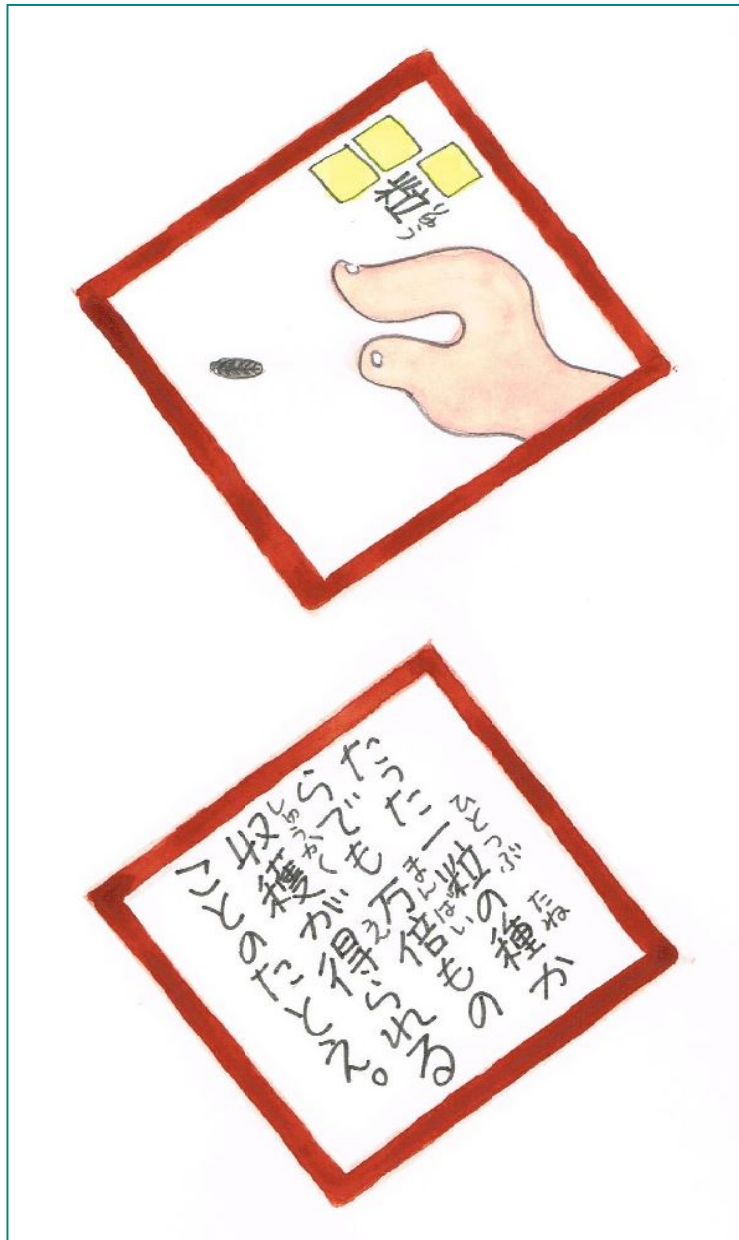
そして、子どもの頃、お祭りが終わって何となくさびしい気持ちで家に帰るとき気分だなあ・・・と松舌翁は息を引き取った。

一同、一斉にかたわらの小沢弁護士を見る。つましく控えていた弁護士はおごそかにカバンの中から遺言書を採り

出して読み上げた。
「わしの全財産は、妻ヨシエ、長女ヒロ子、長男一郎、次男二郎に残す」（全員顔に気色）「くらいなら、ドブにすててくれ」としめくくった。



今週の問題



□の中に漢字を埋めて
四字熟語を完成させてください。